

第2回各務原市多文化共生推進プラン策定委員会 議事概要

日時	令和4年3月29日（火） 13時30分～15時30分
場所	産業文化センター4階 第2学習室
出席者	<p>委員：近藤敦委員長、小山真紀副委員長、各務真弓委員、葛西俊夫委員、横前三香子委員、鷺崎純一委員、北角浩一委員、浅野幸子委員、サカクラブルノ委員、</p> <p>事務局：各務原市産業活力部 驚主部長 ：各務原市役所観光交流課 富田課長、川上課長補佐、奥村主事 ：各務原市 田中国際交流員</p>
欠席者	4名（土井佳彦委員、ブルゴスカルロス委員、長岡クラウジオ委員、大畑英樹委員）
協議事項	<p>(1) 多文化共生に関するアンケート調査結果</p> <p>(2) 各務原市多文化共生推進プランの構成・体系案</p> <p>(3) 来年度のスケジュールについて</p>

1. 開 会

2. 開会挨拶

3. 協議事項

(1) 多文化共生に関するアンケート調査結果について

【資料を用いて事務局より説明】

【小山副委員長】

表に色付けをされているが、その基準は何か。また、資料1の78ページに記載されている外国人市民調査と日本人市民調査の対比におけるグラフにおいて、複数回答の項目で、複数の項目を複合した集計を行っており、その際に単純に回答数を足し合わせているが、複数の意見を単純に足し合わせた数値を、本当に多い意見として見ていいのかどうか疑問に思う。本来であれば、回答者のうちの何%が当該複数回答項目に該当する項目を選んだかを示すべきであると思う。そうでないと、複合した項目それぞれに回答した人がいた場合、重複してカウントすることになる。

【事務局】

色付けの部分は、カテゴリ一別に最も高いものを「黒色バック／白抜き文字」、次に高いものを「灰色バック／黒文字」としている。

【事務局】

色付けの部分に関しては、再度精査する。複数項目の合算に関しては、複数の意見の内どれかを選択している人の割合で再度グラフを作成する。

【小山副委員長】

日本人市民アンケートの回答者の年齢分布は高齢者が多いが、この年齢分布と各務原市の年齢別の人口分布とは同じような形なのか。

【事務局】

人口の年代別分布に関しては、後ほど回答する。

【小山副委員長】

外国人市民の回答では、技能実習の方が回答している割合が少ないように思える。例えば、クロス集計を行い技能実習の方がどのように回答しているかという見方を出してもらうことで、属性による傾向が見えると思う。

【事務局】

クロス分析を行い、後日お知らせする。

【近藤委員長】

報告書の4ページに日本人市民の年齢別人口分布を示してほしい。

【小山副委員長】

ワークショップに参加している人は、多文化共生に関して元々関わっている人や、関心の高い人だと思う。一方、アンケートの回答を見ると、「まったく関わることはない」「接点がない」といった意見が圧倒的に多い。

関わっていない人が関わっていけるようにするためには、別のアプローチが必要だと思う。

【事務局】

外国人市民ワークショップについては、対象者（2,000人）にアンケートを送る際に、ワークショップのチラシも同封したが、参加者は7名となっている。

また、チラシの送付時期やワークショップ開催日程が新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の期間と重なっていたこともあり、参加者はかなり少なくなっている。

2,000 人の中には多文化共生などに関わっていない人が多いと思うが、チラシの発送だけでは参加にまで結びつけることが難しいため、募集の方法については再考する。

【小山副委員長】

技能実習の方が多い会社で個別にワークショップを開くのはどうか。日本人従業員と外国人従業員と一緒にワークショップをすることは、助け合いや交流のきっかけになるかもしれない。

近いコミュニティにいる人たちをワークショップのような活動の中で、顔見知りになれるきっかけができる方が良いと思う。

【事務局】

色々な募集の方法はあると思う。関係の深い方もそうだが、色々な方にワークショップに参加してほしいという思いはあるため、事務局でも人数を集められるよう努力をするが、委員の皆様からもアイデアがあれば教えてほしい。

【小山副委員長】

例えば、レストランなどは外国人市民があつまる場になっているため、レストランに協力してもらい、お客様と一緒にワークショップを行うのはどうか。

【事務局】

市役所で開催すると堅苦しくなってしまうため、違った場所で実施することも面白い試みだと思う。一度考えさせてほしい。

【北角委員】

質問になるが、資料1の2ページ、各務原市の外国人人口の推移について、令和元年から令和2年にかけて急激に外国人人口が増えているが、この要因は何か。

また、資料1の4ページで20代の人が多い理由はなぜか。お聞きしたい。

【事務局】

令和元年から令和2年にかけて、急激に外国人人口が増えた理由は技能実習生である。特にベトナムの方が増えている。この時期ベトナムの方だけで年間100人位ずつ増えている。

令和2年以降は、新型コロナウイルス感染症のため技能実習生が入国できず、出国も難しかったため、増減幅は小さくなっている。

【北角委員】

ベトナム国籍の技能実習生が増えた理由は、企業の要請ということか。

【事務局】

そのとおりである。

【事務局】

20代の人が多い理由については、働き手の世代である技能実習生が増えているためである。

【各務委員】

前回の日本人ワークショップを見学した際、聞こえてくる限り日本語教室に関係されている方や、日頃外国人と接している方が多いという印象を受けた。

例えば、自治会長や民生委員といった地域の困り事に対応される方たちの会議などで、意見を聞くと「このような事で困っている」「このような事をしたい」といった実情を踏まえた一般的な市民の意見がきけると思う。

また、大学の学生や留学生、学校のPTAの方など、世代別に意見を聞くことができれば良いのではと思う。自治会長や民生委員にお願いする場合、地域を絞ることも良いと思う。

【事務局】

自治会においては、外国人市民が多い地区少ない地区もある。外国人市民が多く住んでいる地区（現在は鶴沼地区から那加地区に移行）の自治会長にも呼びかけをし、ワークショップに出席してもらいたい。

【近藤委員長】

自分の近くにどの国籍の方が住んでいるのか知らないため、交流がしたいがどうすれば良いかわからない人もいると思う。学校区もしくはもう少し広い範囲で、地域ごとにどの国籍の方がどれくらい住んでいるというデータあれば参考になると思う。

【事務局】

データを参考にしながら自治会に参加をお願いしたい。

【近藤委員長】

地域別・国籍別人口データを多文化共生推進プランの策定資料にも入れておいた方が良いでしょう。

【鷺崎委員】

当社には実習生・永住者・特定技能といった色々な方がいる。会社にいる人に「ワークショップに行かないか」と声を掛けたが、結果的に全員行かなかった。自分にどのようなメリットがあるのか分からなかったからではないかと思う。

彼ら彼女らにメリットがあると思わせる何かがあった方が良いでしょう。先ほど話に上がった実習生だけのワークショップについては、協力出来るので言ってもらえればと思う。

【事務局】

ワークショップのメリットとしては「人の繋がりができる」という点が言える。今回参加して

いた外国人の方は顔見知りではなく初対面の方が多かった。しかし、ワークショップが終わった後はライン交換や「普段どんなことをしているのか」といった話をするなど、繋がりが広がっていた。

【浅野委員】

先ほど話があったワークショップで「仲間ができる」というメリットと同様、市のまちづくりの団体と活動ができるというメリットがあれば外国人市民は来るのではないかと思う。

ワークショップに参加した外国人に私の友人がいるが、ワークショップに誘った際に「貴方が隣にいてくれるなら行く」と言われた。やはり一人で参加するのは不安なのかと思う。

私が活動している「国境なきレクリエーション」は、ほとんどロコミでしか広がっていないため、ロコミで広まるような繋がりと勇気を持って参加しやすいのではないかと思う。

【事務局】

当課には国際交流員の職員が3人いる。言葉が通じる職員がいるという事が伝わればワークショップにも来やすいと思うか。

【浅野委員】

例えば英語などが通じるという事があるだけでも違うと思う。

【事務局】

ベトナム語、英語、ポルトガル語が通じる職員がいるため、その辺りを含めて考えていきたいと思う。

(2) 各務原市多文化共生推進プランの構成・体系案について

【資料を用いて事務局より説明】

【小山副委員長】

ここで議論されたことは、今後どういう影響を及ぼすのか。進行する上で後から変更が出てきた場合、都度修正ができるのか。

【事務局】

第2章が今年度の部分になる。第3章以降は4月以降の検討になる。第4章に基本目標を6つほど挙げているが、あくまでも総務省が出している指針なので、この通りに進めようとは考えていない。

各務原市の地域の特性が反映されている課題を検討し、各課の担当者とも合わせて、それぞれの取組みにどのように反映していくかを考えながら進めていく。基本理念・基本目標は4月以降にまた皆さんと検討させていただきたい。

【北角委員】

第3章の基本理念は早めに検討する事は可能か。

【事務局】

初めに基本理念を考えたいと思う。アンケートの結果で課題の柱がいくつか出てきている。「コミュニティの機会」、「言葉の壁」、「円滑なコミュニケーション」、「情報の多様化」などいくつかあるため、現状の人口推移や日本語指導が必要な児童の数などのデータと照らし合わせて、もう少しじっくり課題を見つめて基本理念に活かしていこうと考えている。このような内容を来年度の早い段階で検討したい。

【小山副委員長】

基本目標を6つ挙げているが、今後の外国人住民の年齢別人口推移予測などはどうなるのか。最近、外国人住民の高齢者の認知症や介護の問題など色々と話を聞く。保育教育や労働基準など、現役世代から下の世代の話が中心になっており、高齢者の話が入っていないため、もう少しフォーカスした方が良いのではと思う。

【事務局】

基本目標5の「安全安心な生活支援」というところに関連してくると思うが、このプランは5年10年先を見据えている。当然、今60代の方が70代になるといった時の事まで見据えている。

資料1の54ページ、外国人市民アンケートの間32「介護サービスを受ける際の困り事・心配事」という項目では、「今のところ心配ない」という答えもあるが、「経済的な負担が大きいい」も28.1%、「介護保険制度がよく分からない」も21.1%とあるため、このようなことを丁寧に説明できる形で支援していきたいと考えている。

【近藤委員長】

このプラン自体は5年のプランなのか。

【事務局】

令和5年度から11年度までの7年計画となる。その後は5年計画となる。

【小山副委員長】

推進体制はどういう方々や団体が入る予定なのか。

【事務局】

今の段階では、推進体制は決めていない。

【近藤委員長】

国際協会と市は別の組織として、それぞれ役割があるのか。

【事務局】

国際協会は市の外部組織となるが、職員は市の職員が兼務している。今のところ明確にはっきりと業務が違っている訳では無い。

【近藤委員長】

アンケートの結果を見ると、市のHPと国際協会のHPは認知度がなく、情報が伝わらないという不安が残る。何か行う時は、両方のHPで告知するのか。

【事務局】

国際協会のHPも変わらなければいけないと思う。今までは国際貢献や国際交流を志向する日本人向けになっている。今後は市内に住む外国人にも伝わるよう、外国人市民へシフトしていきたいと考えている。外国人市民に伝わるような言語、内容などを協会のHPに反映していきたいと考えている。

【近藤委員長】

国際協会には市から出向している方が専属でいるのか。

【事務局】

そうである。

【北角委員】

私は国際協会の会長を務めている。私の理解としては、来年度策定される多文化共生推進プランに基づいて、国際協会が実際に活動していくという考えである。市が行う活動を国際協会が中心となって活動していくという認識である。

【近藤委員長】

プランの策定について観光交流課が行うのか、また国際協会が行うのかという点が気になる。両方で進めた方が良いと思う。他の自治体ではそれぞれの役割が分かれているため、そこをどのように工夫するかは考える必要がある。

「この部分は主に国際協会が中心に」、「こちらは観光交流課で」といった形が良いと思う。それともプランを作るのが観光交流課で実施担当が国際協会になるのか、その辺も考えて作ってもらえればと思う。

【事務局】

多文化共生推進プランは市、行政が作る行政企画であるため、具体的な事業については基本的には市が行う。国際協会には、コミュニティ支援や賑わい交流作りなどの分野についてお願いすると思う。また、教育なら教育委員会にお願いし、安全安心という点では防災対策を連携して行うということになる。全てを観光交流課が行うのではなく、庁内全体で連携させた上での推進体制になるのではないかと思う。

【各務委員】

基本理念は年度があけたら検討するとのことだが、課題から理念があり、そこから施策を考えていくという流れになると思うが、その辺りのタイムスケジュールはどうなるのか。

【近藤委員長】

それは次の議題となるため、スケジュールの説明をお願いします。

(3) 来年度のスケジュールについて

【資料を用いて事務局より説明】

【近藤委員長】

6月の策定委員会では、3章を中心に話すか、1～2章の文章は出来ていると考えてよいのか。それともまだ1～2章は文章として出来上がっていないのか。

今回の報告内容が多文化共生推進プランの1～2章の形になるかと思うが、合わせて3章の案が出てくることで課題や目標の中身などのイメージがつくと思う。このような意識を持って次回の策定委員会に示してもらえれば良いと思う。

【事務局】

今回は6月下旬を予定している。

4. 閉 会